

68 「わが家のセキセイインコ」

2013年4月、わが家に初めてセキセイインコを迎えてもう5年経った。
これまでにたくさんの雛が生まれ、新しい命の誕生にワクワクやハラハラさせてもらっている。

セキセイインコはオーストラリア原産で、本来自然の中でたくましく生きる鳥なのに、カゴの中で生まれその中で生きているペットとしての鳥はかわいそうな気がする。

でも、落ち着きなくエサを取り合ったり、止まり木でのんびりと毛づくろいしている様子を見ると、それも少し考え過ぎかもしれないと思ったりする。

卵から雛が孵るのにどのくらい日がかかるのか？といったごく初歩的な興味から始まった記録なので、あまり面白味はないけれどここに紹介したい。(2018.05.06)

■2013.04.08

セキセイインコの番を迎える。

家の中で普通の鳥かごで飼育開始。

オス：レインボー（頭は黄色）

メス：オパール（グリーン）

ヒナが生まれるなら楽しそう。ただ、鳥にも相性があるだろうから、実際に生まれるかどうかわからない。のんびり待つことにする。



初代インコ（オス:レインボー、メス:グリーン）

■2013.11.16

卵を確認。我が家に迎えて7か月ほど経っていた。(卵の個数は未確認)

寒い時期なので、無事ヒナが孵るのか心配。

■2013.12.07

ヒナが生まれた！このとき私はちょうど旅行中で、ヒナの誕生を妻からの電話で知った。鳥の世話はすべて私が担当していたので、何もわからない妻は慌てている。実は、私もどうすればいいのかわからないので妻に任せるしかない。そんな中、妻はペットショップで訊いたりしながら何とか世話をしてくれた。旅先の私はどうすることもできず、ただ死なずにいて欲しいと願うだけだった。



下の二匹が子供（1ヵ月で大分成長したがまだ飛べない）

ヒナは順調に成長、“案ずるより産むがやすし”で、母親はずっと巣に入りきりでヒナの面倒を見ている。母親は時々巣から出て自らヒナに餌を運ぶが、父親が頻繁に母親に口移しで餌を与えている。父母が協力して子育てをしているのはどんな生き物でも同じなのだ。

真冬で、夜は部屋の温度がかなり下がるはずだが鳥は人間よりずっと寒さには強いようだ。

子供は二匹とも母親に似てグリーンだった。

だが、よく見ると胸元の毛に少し水色が入り父親の色も受け継いでいることがわかる。

最初から、餌は粟（殻付き）とビタミン補給のため小松菜、そして卵の殻のもとになる牡蠣殻を砕いたボレー粉を与えている。



真ん中の二匹が子供（二匹とも母親と同じグリーン）

■ 2014. 02. 07

グリーンの母親死ぬ。子供を産んで育て2か月で死んでしまい本当に残念！

■ 2014. 02. 17

母親が死んで10日後、順調に成長していると思っていた二匹の子供のうち一匹が死んだ。

残ったのは、レインボーの父親と一匹の子供だけとなってしまった。子供がオスなのかメスなのかはもう少し日が経たないとわからない。

■ 2015. 02. 21

あれから1年経った。一匹だけ残った子供はオスだった。オス2匹だけではどうしても寂しいので、新たに2匹を迎えた。一匹は黄色（ルチノー）、もう一匹は白主体で背中がブルーと濃紺が少し入っている。こういうのをハルクイン（雑種）と呼ぶらしい。まだ生まれて間もないので、雌雄の判別はつかない。できれば番（つがい）であって欲しい。



ブルーはオス、黄色はメスだった

■ 2015. 05. 11

新たに迎えた2匹のうち、黄色はメス、ブルーはオスだった。

そして5月11日、巣に1個の卵を確認した。その後、卵はどんどん増え7～8個にもなった。

■ 2015. 06. 02

卵から1匹のヒナが孵った。それから2週間の間に次々と孵り巣の中が卵とヒナで一杯になるほど。その中の1匹の成長が悪く元気がない。ほぼダメか？と心配していたが、驚いたことに翌日は元気になり一回り大きくなっていった。母親は頑張っている面影を見ているので心配ないようだ。



巣の中の様子

■ 2015. 07. 01

最終的に卵は10個ほどになったが、そのうち孵化したのは全部で5匹だった。巣の中から、エサを求めるヒナのかわいい鳴き声が聞こえる。



左から3番目、4番目、 2番目



5番目、 1番目（7月11日撮影）

■ 2015. 07. 30

6月2日に初めてヒナが孵って、成長したヒナを鳥カゴの上に載せて放し飼いで飼育することにした。まだ飛べないのでカゴの上でも逃げることはない。そして、最後の5匹目のヒナをカゴの上に載せるまでに約2ヶ月かかった。5匹の内訳はグリーンが2匹、ブルーが2匹、1匹が父親と同じブルー・濃紺（親より紺色が少し薄い）だった。



飛べるようになるまで5匹とも鳥カゴの上で飼育（8月6日撮影）

■ 2015. 08. 07

黄色の親が再び卵を産んだ。8月7日に2個確認、その後8月15日まで6個に増えた。

■ 2015. 08. 23

産卵から16日後、卵が孵化し再びヒナが1匹生まれた。その後、

8月24日：2匹目、25日：3匹目、29日：4匹目、9月2日：5匹目と続けざまに生まれた。



第二世代のヒナ5匹（9月8日撮影）

■ 2015. 09. 28

6月に生まれた5匹が成長し、3か月経ってオス・メスが判別できるようになった。
緑（オス1、メス1）、ブルー（オス1、メス1）、ブルー・濃紺（メス）と思われる。
これで、親鳥4匹に5匹が加わり成鳥9匹とヒナ5匹で合計14匹になった。

■ 2015. 09. 30

8月に生まれた5匹のヒナのうち、最初の3匹については巣が狭いので早めに巣から出したが、残りの2匹についてはそのままにしておいた。するとその雛が巣箱から顔を出して今にも自力で出てきそうな様子。そして、とうとう10月2日に4番目の雛が巣箱から出て来た。色はグリーンだが羽根の後ろ側に黄色が多く珍しい色相だ。続いて最後の1匹も10月7日に巣から出てきた。

■ 2015. 10. 07

新たに卵2個確認。10月9日：4個、10月13日：6個になった。この黄色の母鳥は多産系のようだ。

■ 2015. 10. 22

10月22日、1匹目のヒナが孵る。
その後、10月24日：2匹目、28日：3、4匹目、11月2日：5匹目が孵った。



第三世代のヒナ5匹（11月23日撮影）

■ 2015. 11. 14

6月に生まれた第二世代が産卵した。鳥カゴは2つを連結して自由に行き来できるようにし、それぞれのカゴに巣箱を入れておいたら別の巣箱に2個の卵を確認した。

その後さらに2個産卵し合計4個になった。生まれて5か月半で卵を産んだことになる。

■ 2015. 11. 20

一週間も経たないうちに産卵した母鳥が死んでしまった。何故だろう？本当にかわいそうで残念。仕方ないので卵は別の巣に移した。孵化するかどうかわからない。

■ 2015. 11. 28

11月2日に生まれた5番目のヒナが死んでしまった。黄色が多めのハルクインだった。元気に育つと思っていたがわからないものだ。最後に孵ったヒナは先に生まれたヒナに比べて条件が厳しいのかも知れない。

■ 2015. 12. 04

10月28日に生まれた4番目のヒナが死んだ。ブルー・濃紺で父親似のヒナだった。生まれて1か月以上経ちかなり大きくなっていてのにとっても残念。

■ 2015. 12. 08

残った3匹はもう充分大きくなったので、巣から出し自分で餌を食べるようにした。

■ 2015. 12. 18

黄色の親が新たに卵を1個産んだ。

■ 2015. 12. 23

インコのヒナを欲しいという方がいて残った3匹のうち2匹（黄色ハルクインと緑オパール）をあげた。飼うのは初めてとのことで、簡単に飼育方法を教えたがうまく育ててほしい。

■ 2015. 12. 28

残っていた最後の1匹が死んでしまった。結局10月に生まれたヒナは3匹とも死に、手元には1匹も残っていない。

■ 2016. 01. 02

6月に生まれた第二世代が、今年の11月に続き卵を1個産んだ。

■ 2016. 01. 08

さらに2個追加し3個の卵を確認。

■ 2016. 01. 25

残念ながら3個の卵は孵らなかった。母鳥はしっかり抱卵していたように思うが、孵らなかったのは冬で気温が低いせいかな？これまでヒーターなしでやってきたが、ヒーターが必要だったのかもしれない。あるいは、生まれてからまだ7か月しか経っていない若い親だからか？

■ 2016. 02. 01

黄色の親がまた卵を1個産んだ。

■ 2016. 02. 15

先日産卵した黄色の母親が死んでしまった。

2015年2月21日に我が家に迎えて、1年しかいなかったことになる。

3回産卵し抱卵、孵化させ合計15匹ものヒナを産んで育てた。

現在カゴにいるのは、ほとんどがこの親から生まれたものだ。数日前から頭の後ろの毛が突つかれて、薄くなり血もでていた。あまり元気がなく心配していたが、そうなった理由はよくわからない。

1年に3回もの産卵はとても過酷だったのかも知れない。かわいそうで仕方ない。相棒のブルー・濃紺のオスはこれからどうなるのだろうか？

■ 2016. 02. 20

第二世代のブルー・濃紺（親より紺色が少し薄い）とグリーンが卵を5個産んだ。2匹で抱卵している。

■ 2016. 03. 02

昨年6月に生まれた3匹のメスのうちグリーンのメスが死んだ。

なぜだろう？メスが少しずつ減っていく。

■ 2016. 03. 04

第二世代のメス（別のブルー・濃紺）が死んだ。数日前から巣の中でグッタリしていたのに気付かずにいた。卵が詰まったのか？メスにとって産卵し、抱卵そして孵化は過酷。

これでメスが2匹になってしまった。オスは9匹。一方、2匹で抱卵している方の巣で、今日新しいヒナが1匹孵っていた。新しい命の誕生はいつでも感動。

■ 2016. 03. 15

3月4日に生まれたヒナが死んでしまった。昨日巣を見たら元気がなく、あぶないと思っていたが心配していた通りになってしまった。残りの卵5個も孵る気配がなく干からびていたので、全て巣から出した。第二世代の親はまだ慣れないのか子育ては難しいようだ。メスは2匹とも巣から出てしまった。これでオス9匹、メス2匹となり新たなスタートとなる。

■ 2016. 04. 07

残った2匹のメスがそれぞれ別の巣箱で卵を産む。

■ 2016. 04. 23

2匹のメスのうち1匹が死んでしまった。多産の黄色のメスから生まれた数少ないメスだったが、次々と死に残ったのはわずか1匹になった。今日死んだメスは何度も卵を産んだが、実際に生まれたのは1匹だけだった。しかしそのヒナも育てきれず途中で死んでしまった。腹に卵を詰まらせてしまったのだろうか？メスにとって産卵は厳しい。残ったメス1匹はどうなるだろうか？

■ 2016. 04. 30

最後のメスが死んだ。朝元気がなく、それでもやっと歩く感じでエサを食べていたが、昼頃見ると水の中に首を突っ込んだ形で息絶えていた。

結局、黄色の親から生まれた第二世代は全く子孫を残すことはできなかった。1匹だけヒナが孵ったが、それも生まれて間もなく死んでしまったためだ。残ったのはオス8匹ということになった。

■ 2016. 12. 16

初代オス（ブルー・濃紺／黄色メスの相棒）が死んだ。最近他のインコから突つかれているようで気になっていたところだ。だんだん元気がなくなり、巣箱の中に避難することが多くかわいそうだった。なぜ急にこんなことになるのか全くわからない。

■ 2017. 2月

オスのみ4匹生息。

■ 2017. 09. 20

オス3匹を半年以上飼育。オスだけでは寂しいので新たにメス（アルビノー：純白）1匹を迎えた。



純白：メス ブルー・濃紺：オス（黄色メスの子）

■ 2018. 01. 18

あれから4か月经ち、新しい純白のメスが産んだタマゴ1個を確認。

■ 2018. 02. 06

タマゴ4個確認。

■ 2018. 02. 08

最終的にタマゴは5個になった。

■ 2018. 02. 26

5週間経って最初のヒナが孵った。

■ 2018. 03. 01

ヒナは3匹になっていた。残りタマゴ2個

■ 2018. 03. 05

オス（オパーリン：ブルー／黄色メスの子）が死ぬ。病気なのか？糞詰まりか？
生まれるものもあれば死ぬものもある。

■ 2018. 03. 11

ヒナ3匹順調に成長、3匹とも目が開いた。残りのタマゴ2個は孵らず。



ヒナ3匹（3月12日撮影）

■ 2018. 03. 16

何と！一番最初に生まれたヒナが死んでしまった。朝巣箱を覗いたら弱っていて、結局何もしてあげることができなかった。巣の中で何かが起きていると思うが知るすべがない。弱々しく斜めにしか立つことができなかったので、何らかの原因で足を痛めたのかも知れない。



元気な時の1番ヒナ（3月14日撮影）



2・3番目 2匹とも純白（3月17日撮影）

■ 2018. 03. 20

残ったヒナ2匹は元気、二匹とも母親と同じ純白。

■ 2018. 03. 27

朝1匹のヒナが巣から出て止まり木に止まっていた。巣立ち。純白で目がパッチリ大きく初々しく、とてもかわいい。

■ 2018. 03. 30

もう1匹のヒナがなかなか巣から出てこないで、強制的に巣箱から出した。それ以降巣には戻らなくなった。



大きくなった2, 3番目 (4月6日撮影)

■ 2018. 04. 02

純白のメスがまたタマゴを1個産んだ。2か月半前の1月18日に最初のタマゴを産み、つい2週間前までヒナの世話をしていたのに。その後親はずっと巣に入っている。

■ 2018. 04. 12

メスはほぼ2日に1個のペースで産み、最終的にタマゴは6個になった。

■ 2018. 04. 20

前回5週間かかったのに、今回は18日間で最初のヒナが孵った。

■ 2018. 04. 29

4月20日、21日、23日、25日、27日とほぼ2日ごとにヒナが孵り、今日ヒナ6匹すべてが生まれた。しかし、5番目のヒナは餌がもらえなかったのか、押し潰されたのかわからないが死んでしまった。

■ 2018. 04. 30

今朝6番目のヒナも死んでいた。原因ははっきりしないが、先に生まれたヒナに比べて圧倒的に小さく弱い。巣が小さすぎるのか、親からの餌がいきわたらなかったのか？

■ 2018. 05. 05

4匹のヒナは順調に育っている。巣が小さくて窮屈なので、一番大きいヒナを親から離して人工的に餌を与えようとするが全く受け付けない。巣に戻すしかないようだ。



他の3匹に比べずっと小さい末っ子 (5月4日撮影)

■ 2018. 05. 19

4匹とも元気に育っている。今日2番目の子が巣から出てきていたが、自力でエサが食べられないようで、暫くしてまた巣に戻っていった。

■ 2018. 05. 21

4匹の子は羽の色がすべて違う。1番目はオーソドックスな青。2番目はほとんど白で、背中に少し青が混じっている。3番目はオスの親とほぼ同じで少し青色が薄い。4番目はまだ羽が生えそろっていないので良く判らないが他の3匹とは違っているようだ。4番目だけ残して3匹とも巣箱から出すと、危なげに止まり木につかまっている。3番目の子に他のオスが口移しでエサをやっている。親でないオスが子にエサをやっていたのは少し驚きだった。共同で育てているという感じ。

■ 2018. 05. 30

犬小屋を改造して鳥小屋を作った。犬小屋の周囲にプラスチックの細かいメッシュを貼っただけなので出来栄はあまり良くないが、以前からもう少し大きな小屋を作ってあげたいと思っていた。

新しい鳥小屋に10匹ともすべて移した。幅80×奥行60×高さ65センチで、これまでに比べて

充分に大きいので、鳥たちは自由に飛ぶことができストレスが少なくなったことだろう。

ただ専用の鳥小屋ではないので、エサやりで大きな扉を開けたとき逃げられないよう注意が必要なことや、掃除がしにくいことなどいくつか問題はある。

小屋の中でインコた



ちは大きく羽ばたくので、その風圧でエサの食べ殻が周りに飛散して家の中がエサ殻だらけになり大変なことになった。エサ箱を深い容器にしたがそれくらいではとても追いつかない。

数日間はこのままの状態であの中に置いていたが、エサ殻の飛散が凄いでベランダに出すことにした。こうすると、雨の日はビニールシートで被わなければならない。まあ、鳥のストレスが少なくなるのが優先なので、しばらくはこの状態で飼育してみようと思う。

■ 2018. 06. 16

タマゴ2個確認。6月20日にさらに2個増えて合計4個になった。

■ 2018. 06. 25

ヒナが1匹孵る。6月16日にタマゴを確認したが、かなり前に産んだタマゴだったようだ。

■ 2018. 06. 27

朝エサをやろうと見ると、前夜からの強風で鳥小屋の屋根が一部開き、何と！4匹も逃げられてしまっていた。昨夜“強い風が吹いているなあー”と思ったのだが、まさか鳥小屋の屋根が外れるとは思ってもよらなかった。強風に気付いた時点で対処しておけば良かったのに、後の祭りだ。

奇妙なことに、いなくなった4匹は2回目に生まれた4匹だった。全部違う模様で可愛かったのに本当に残念。それにしても、朝発見したとき屋根の一部は開きっぱなしだったのに、他の鳥が逃げなかったのが不思議だ。

鳥小屋を家の中に入れ、逃げた鳥がもしかしたら帰ってくるかも知れないと思い、ガラス戸を少し開けておいた。逃げた4匹は自然の中で自力でエサを見つけ生きて行けるだろうか？

■ 2018. 07. 06

逃げた4匹は結局帰ってこなかった。何とか生き延びて欲しい。(生態系としては良くないことだが) 2匹目のヒナが孵っているのを確認。

■ 2018. 07. 21

2匹のヒナは順調に育っている。1匹目は母親と同じ純白、もう1匹は今のところグレー色に見える。午後になると巣箱に直射日光があたるので、その部分に紙をあて遮蔽した。それにしても先日逃げられてしまった4匹が惜しい。無事生き続けているだろうか？



白/6.25生まれ、青/7.6生まれ（7月11日撮影）



青の毛が生えそろってきた（7月19日撮影）

■ 2018. 07. 30

2匹とも巣から出てきた。



7月29日撮影

■ 2018. 08. 02

再び1個タマゴを確認。

■ 2018. 08. 08

タマゴ4個確認、メスは巢に入りっぱなし。

■ 2018. 08. 19

ヒナ1匹孵る。その後残った3個のタマゴは孵らなかった。

■ 2018. 09. 16

ヒナが巣立ちして外に出てきた。母親と同じ純白で目が一段と大きく可愛い。カゴの隅に小さくなっていて少しかわいそう。



唯一孵った1匹（純白）
（9月2日撮影）



1週間後の成長状態
（9月9日撮影）

■ 2018. 09. 17

新たにタマゴ1個確認。

■ 2018. 09. 23

タマゴ4個確認。

■ 2018. 09. 27

せっかく鳥のことを考えて大きな小屋にしたのだが、改造鳥小屋は何かと扱いにくく、大型の台風24号が接近してくることや、大きくて重い鳥小屋は家への出し入れが大変なこともあり、これまでの既製の鳥カゴ（2連結）に移すことにした。鳥カゴに移すのが一苦勞。エサの置き場所を変えたくらいではダメだったので、仕方なく一旦部屋の中に放してアミで捕まえて1匹ずつ移した。

■ 2018. 09. 30

台風24号の強風で、ベランダに出していた鳥小屋が台の上から落ち、骨組みが曲がってしまった。また使うには修理が必要になった。

■ 2018. 10. 02

タマゴ6個確認。

■ 2018. 10. 07

ヒナが1匹孵る。

■ 2018. 10. 08

これまで巣箱は1つだけだったが、前に生まれた鳥が成長してきているので、新たに巣箱（左側のカゴに）を1つ追加して、他の親がいつでもタマゴを産めるようにした。

■ 2018. 10. 10

新たにヒナが2匹孵り3匹になった。

■ 2018. 10. 13

もう1匹孵り全部で4匹になった。前回はタマゴを4個産み1匹も孵らなかったが、今回はタマゴ6個産み4匹孵った。

■ 2018. 10. 19

4匹孵ったヒナのうち3、4番目が死んでしまった。やはり後から生まれたヒナはエサを充分もらえなかったようだ。今後こういうことがないように何か対策を考えなければいけないのだが、、、。

■ 2018. 10. 22

新しく入れた巣箱（左側）にタマゴ1個確認。巣箱をセットしてすぐに白のメスが頻繁に巣に出入りしているのに気付いていたが、やっとタマゴを産んだ。親は今年3月初旬に生まれた白2匹のうちの1匹だろう。相手のオスは7月6日に生まれたブルーなのだと思う。このメスにとっては初めてのことな

ので、きちんとヒナを孵せるだろうか？

■ 2018. 10. 23

タマゴ2個確認

■ 2018. 10. 27

タマゴ4個確認。一日1個くらいのペースでタマゴを産んでいる。

一方、10月7日～9日に生まれた2匹のヒナは順調に大きくなっている。1匹は母親と同じ白、もう1匹は父親と同じブルー。



10月27日撮影

■ 2018. 11. 08

順調に育っていると思っていたヒナ（白、ブルー）が、無残にも今日2匹とも死んでいた。11月4日に確認したときは元気で、すっかり羽も生え揃ってもうすぐ巣立ちだと思っていた。

ところが11月4日に成長の様子を確認して巣箱の中に巣を戻すとき、不注意で2匹とも巣で挟んでしまったらしい。巣と巣箱の間に挟まって圧死した可能性が高い。巣箱の中はよく見えないので注意しなければいけないとは感じていたのだが、本当に可愛そうなことをしてしまった。

親鳥は何も言わないが、ひどい飼い主だと思ったことだろう。今後こういうことが絶対にならないように注意しなければならないと思った。

■ 2018. 11. 11

巣箱（左側）のタマゴ4個のうちの1個が孵って、新しい小さなヒナが生まれた。10月22日から20日後に孵化したことになる。新しい親がきちんとヒナを育てられるかを注意してみたい。

■ 2018. 11. 15

2個目のタマゴの殻が割れていたのの中を見ると、丸いタマゴの中で生まれる直前の状態で死んで乾いてしまっていた。何かの原因で殻から出て来ることができなかったようだ。

残りのタマゴは無事に孵化するだろうか？

今日、巣の中をファイバースコープで見ることができるようになった。これまで、巣の中の状態を見るために巣箱を開け、巣を取り出さなければ確認できなかった。

巣を確認するその都度母鳥を驚かしていたが、これからはファイバースコープで確認できる。

■ 2018. 11. 18

もう一方の巣（右側）では新たにタマゴが1個産んであった。

■ 2018. 11. 21

タマゴを2個確認。もう一方の巣箱（左側）の中では、11月11日に生まれたヒナが順調に育っていたが、他のタマゴは孵化せず。



殻から出られなかった雛 11月15日撮影

■ 2018. 11. 26

朝、巣箱（右側）を覗いたら、これまでたくさんの雛を産んで育ててきた白のメス鳥が死んでいた。つい先日2個目のタマゴを産んだばかりだったのに。24日か25日には既に死んでいたのかも知れない。頭に突つかれた痕があったがそのせいだろうか？強く逞しい母親だったのでとても不思議。

巣の中のタマゴはさらに1個増えて3個になっていたがもう冷たくなってしまっていた。タマゴを別の巣に移してみたが多分孵化は難しいだろう。あんなに元気だったのに死ぬときは呆気ない。それにしてもたくさんの子を育てた親だったのに本当に可愛そうだった。

■ 2018. 12. 17

11月11日に生まれたヒナが巣立ち、今日巣箱の外に出ていた。1ヶ月と1週間で巣立ちしたことになる。今日、もう一方の巣箱（右側）を見たらタマゴが3個産んであった。新たに別のメスが産んだタマゴだ。これで11月26日に死んだ親鳥の子の世代の2匹目が産卵したことになる。

■ 2018. 12. 25

タマゴ6個確認

■ 2018. 12. 31

タマゴの孵化が遅いと思っていたが、今日巣を覗いたらヒナが2匹孵っていた。

■ 2019. 01. 04

ヒナが3匹になった。

■ 2019. 01. 06

さらに1匹孵って4匹になっていた。

■ 2019. 01. 10

4番目に生まれたヒナが死んでいた。やはり最後に孵ったヒナはエサがもらえないのか、わずか数日で死んでしまった。親鳥に代わってエサをやることはできないので、こればかりはどうすることもでき

ない。

■ 2019. 01. 13

白の成鳥が1匹死んでしまった。白色のインコは全部で5匹いたが、目印がなく区別がつかないのでどの鳥が死んだのかわからない。今、雛を抱いている親鳥ではないか？

■ 2019. 01. 28

3匹のヒナのうち一番小さいヒナが死んだ。4番目に孵ったヒナに続いて3番目のヒナもやはり育つことはできなかった。親が巣箱の外に出したのかも知れない。無残にも巣箱の外で死んでいた。

他の2匹が心配になり巣箱の中を確認してみたが2匹とも無事だった。かなり成長して大きくなっていった。そして最も驚いたことは母親が巣の中で死んでいたことだ。理由はわからない。

ヒナのエサはオス鳥がやるのだろうか？ここまで大きくなっていけば巣立ちはもうすぐなので、心配の必要はないのかも知れない。

■ 2019. 01. 30

今日、多くの子を残したブルーのオスが、小松菜のビンに頭を突っ込んだ状態で死んでいた。

水を飲もうとして頭を入れ、抜けなくなってしまったのか？こんな死に方、本当に可愛そうだ。

今まで元気で飛びまわっていたのに、急に死んでしまうなんて本当にわからないものだ。

つい先日母親が死んでしまったが、雛には他のオスが餌をやっているので大丈夫のようだ。

2匹のうち1匹は巣箱から出てきて、巣に残っているもう一匹にも別のオスが面倒をみているようだ。カゴの中のすべての鳥が協力し合って子育てをしているように思う。



巣立ちした2匹の雛 1月30日撮影

■ 2019. 02. 08

右の巣箱に新たにタマゴ2個確認。白のメスが産んだようだ。

■ 2019. 02. 18

タマゴがたくさん増えて7個確認。

■ 2019. 02. 26

1月末に巣立ちしたヒナはより成長し、右側の巣箱では新たにヒナが2匹孵った。



すっかり成長した2匹 2月24日撮影

■ 2019. 03. 02

さらに2匹孵ってヒナは4匹になった。

■ 2019. 03. 05

さらに2匹孵って6匹になった。小さなヒナは餌をもらえるだろうか？

■ 2019. 03. 10

ヒナが全部で6匹いたはずなのに一番小さなヒナが見えなくなった。今日は5匹しかいない。親鳥に食べられてしまったのか？

■ 2019. 03. 14

5番目のヒナが他の大きなヒナに埋もれるように死んでいた。

■ 2019. 03. 17

4番目に生まれたヒナが他の3匹の下敷きになってフンまみれの無残な姿で死んでいた。大きなヒナは充分エサをもらいどんどん大きくなっていき、後から生まれたヒナは大きくなったヒナの重みで圧死させられてしまうのは何ともやり切れない。これで残りは3匹、6匹生まれたのに半分になってしまった。



4匹のヒナ（2日後にこの中の1匹が死んでしまった） 3月15日撮影

■ 2019. 03. 22

残った3匹の中の一番小さいヒナ（それでもかなり大きくなってはいたが）が、今日瀕死の状態になっていて、暫くして死んだ。ほとんど歩くことができず、目も開いていなかった。フン詰まりか？原因不明。これで残りわずか2匹になってしまった。

■ 2019. 04. 03

残った2匹は順調に育ち巣立ちした。2匹とも純白だ。母親が白のせいかな生まれてくるヒナは白の確率が高い。

2連結した鳥かごには全部で9匹の成鳥がいて、ブルーのオスが2匹、1月末に巣立ちした2匹はほとんど白だが、背中に少し薄いブルーが入ったのが1匹、グレーが斑に入り真中にごく僅かブルーが残るのが1匹。残りの5匹はすべて純白だ。白のインコはどれも同じで区別がつかない。

何故か白はオスとメスの見わけもつきにくい。この状態が進むとどんどん白の比率が多くなってしまいうように思う。そして今日、白のメスが新たにタマゴを1個産んでいた。



巣立ちした純白の2匹 3月31日撮影

■ 2019.04.05

タマゴ2個確認。

■ 2019.04.13

4月 7日 タマゴ3個

4月10日 タマゴ4個

4月13日 タマゴ5個

■ 2019.04.15

タマゴ6個確認。1月末に巣立ちした、背中に少し薄いブルーが入ったインコが、最近ほとんど巣箱（左側）の中に入っているのが不思議に思っていた、時々姿を見せていたが、くちばしの上に突かれたような痕があり、いじめられて巣箱に逃げているのかと思っていた。

この巣箱の中に入れてあった藁の巣は、くちばしで突かれバラバラにされてしまったので取り除いて箱だけの状態だった。今日、巣箱を開けて見ると、何と！タマゴが5個も産んであった。藁がないので木板の上に産み落としたという感じの状態だ。

これには驚いた。まだ巣立って3ヶ月も経っていないのに、まさかタマゴを産むとは思っていなかった。少なくとも半年くらい経たないとタマゴを産むことはないと思っていたのに。この巣箱にずっと入っているのはこのインコだけなので、まさか他の鳥が産んだものではないだろう。すぐに小さな深めの皿にマジックテープで布を張り付け、その上にそっとタマゴを置き巣箱に戻した。これで2つの巣箱に合計11個ものタマゴがあることになる。(2019.04.15)